



崎山小児科・院内報

●Kero Kero 通信●

4月 2024年

第301号



動画を使った情報提供

平成元年に崎山小児科が開業したころは、パソコンはあってもインターネットはまだ普及しておらず、電子メールもありませんでした。育児情報や子どもの病気の知識を伝えるものとしては育児雑誌が主流であり、ベビーエイジ（婦人生活社）、ひよこクラブ（ベネッセ）、わたしの赤ちゃん（主婦の友社）、すくすく赤ちゃん（NHK）、ハッピーノート（ミキハウス）など、数多くの出版社から月刊誌が発行されていました。崎山もいくつも原稿を書いた覚えがあります。

今の保護者の皆さんは、多くの情報をスマホやパソコンから入手しているようです。それも文字情報だけでなく画像や動画など、多くの情報量が短時間に入手できる状況です。このケロケロ通信も、崎山が担当する左半分の原稿が約1,000文字なので工夫しながら書いていても、紙ベースでは太刀打ちできないと感じることも多々あります。そこで今回は一つの試みとして動画を作成してみました。ぜひご覧ください。



左の動画は、東京都の公式動画チャンネル「東京動画」に登録されている「保育施設で見落としはいけない感染症」です。令和3年5月に崎山が作成し東京都が制作したもので14分10秒、麻疹、水ぼうそう、おたふくかぜの映像が含まれています。



こちらの動画は、HPVワクチンについての解説で、今月、新しく作成したものです。自宅で録音しているので素人感満載ですが、HPVワクチンについて知っていただきたい内容をまとめてみました。こちらは16分38秒です。

麻疹（はしか）

麻疹（はしか）は空気感染・飛沫感染・接触感染により生じる急性の全身発疹性感染症です。ワクチンを受けていない人の身体に麻疹ウイルスが入るとほぼ全例で症状を発症する非常に感染力が強い病気です。回復後は生涯免疫を得るため、通常は1回しか発症しません。

2015年に日本は麻疹排除状態にあるとWHOに認定されましたが、その後も渡航を発端とする麻疹の集団発生がみられることがあります。

◎症状

感染してから10～12日の潜伏期を経て発熱（38～39℃）と同時にカタル症状（鼻水・咳・目やになどの風邪症状のこと）がみられます。この時期はウイルスの排泄量が多ために感染力が最も強く、頬に白い粘膜疹がみられることが麻疹の特徴です。いったん解熱した後、再び40℃近い発熱とともに赤い発疹が身体に出現し、これらの症状は数日間持続します。解熱する頃から発疹は色素沈着といって茶色っぽくなりやがて消失します。

◎治療

麻疹は通常であれば発症から7～10日間で回復しますが、重症化すると肺炎や脳炎などを引き起こす場合もあり、細菌感染が加わって中耳炎となることも少なくありません。麻疹ウイルスに対する抗ウイルス薬は存在しないため、治療は発熱やのどの痛み、咳などに対する投薬、脱水症に対する点滴など対症療法が主体となります。重症化した場合は入院治療が必要ですが、感染症の専門病院での入院となります。

現在、日本での定期接種は1歳児と小学校入学前の年長児の2回接種で、97%以上が免疫を獲得します。国内の麻疹排除状態を維持するためにも予防接種は必要です。最近、国内で麻疹の発症が確認されたという報道を受けて麻疹ワクチン接種の希望者が増えました。ワクチンの在庫不足となったため1歳児の接種を優先して受け付けております。

受診時、2週間以内の渡航歴がある方や麻疹の方と接触がある場合は、受診予約の際に必ずお電話でご相談ください。

崎山先生の当番日

府中市保健センター TEL:042-368-5311

4/1(月)夜間診療(19:30～22:00)



最新情報はX(旧Twitter)で配信中 / 子宮頸がんワクチンの経過措置は令和7年3月31日までです。接種はお早めに